

■平成28年度 第2回我孫子市地域公共交通協議会兼交通会議要録

---

開催日時 平成29年3月30日（木）10:00～12:00

開催場所 我孫子市役所 議事堂 第1委員会室

出席委員 21名

藤井委員、小松委員、近藤委員、吉村委員、篠崎委員、鳥居委員  
正村委員（代理）、中村委員（代理）、豊島委員、安藤委員、秋元委員  
渡邊委員、今井委員、中村委員、麻生委員、橋本委員、青木委員、相良委員（代理）  
斉藤委員、森委員、星野委員

欠席委員 3名

栗原委員、小川委員、宍戸委員

オブザーバー 我孫子警察交通課 佐藤氏

傍聴人 1人

議題

- （1）平成29年度 我孫子市地域公共交通協議会事業計画及び予算（案）について
- （2）運転免許証自主返納者優遇制度について
- （3）あびバス布施ルート改正について

報告事項

- （1）あびバス及びふれあいバス利用状況について
  - （2）我孫子市公共交通に関するアンケート調査結果・分析について
  - （3）新木駅デジタルサイネージの運用について
- ・その他

## ■会議概要

---

(議長)

おはようございます。

それでは次第に沿いまして議事を進めていきますが、最初の議題1は予算及び事業計画となっております。2番目の運転免許証自主返納優遇制度の予算を含んだものとなっておりますので、2番目の議題の審議の後に議題1の予算の審議をしたいと思います。御協力をお願いします。

それでは、まず議題の2番目、運転免許証自主返納者優遇制度について、事務局の説明を求めます。

(事務局)

(資料に沿って説明)

(議長)

御質問御意見がありましたらお願いいたします。

(委員)

免許返納者の優遇期間が2年間(阪東バス)、あるいは2千円分(市内タクシーチケット)ということですが、実際には少なすぎると思いますけれど、期間等を延ばす考えはありますか。

(事務局)

今回は2年間の期限で実施しますが、その先のことは未定です。しかし、ずっと優遇を続けるとなると、現在公共交通を使用している方の不公平感といいますか、そちらとの整合性もあると考えます。

(委員)

先般、我孫子警察から商工会において、免許証自主返納者への優遇措置のお話をいただいたとき、他市では飲食店などについても割引優遇があるということを伺いました。商業観光課とも連携して、カフェだったら100円引きとか、そういったものを考えていけば自主返納を促していけると思います。

実は私の親世代もそういう世代になっておりまして、家族で話題にもなります。そうしたときに、たくさんのメリットがあることが、自主返納に踏み切るきっかけになると思いますが、どうでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。私共もそのようになれば、自主返納に踏み切る方が多くなると思います。しかし、まだこの制度もはじまっていないので、今後、徐々に協力を広げて行きたいと思います。その際には、是非とも皆さんの御協力をいただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(議長)

そのほか御質問ございますか。それでは採決します。

免許証自主返納優遇制度につきまして、案のとおり御承認いただけますでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

御異議ないものと見て採用を決定させていただきます。

続いて、議題の1、29年度の事業計画予算につきまして、事務局の説明をお願いいたします。

(事務局)

(資料に沿って説明)

(議長)

それでは、質疑に移ります。御質問御意見ございますか。

(委員)

免許証返納支援で、20万円というのは安くないですか。

(事務局)

こちらは、現在タクシー分と考えておりますが、支出が増えれば予算の流用や、補正等で対処していきたいと考えています。

なお、免許証自主返納者の状況等につきましては、我孫子警察の方が出席されていますので、御説明をお願いしたいと思います。

(我孫子警察)

28年の我孫子警察での自主返納者数は1,023人でありました。現在75歳以上の免許証保有者数5,824人おりますので、そのうちの1,023人ということになります。27年は800人でしたので、200人プラスになったという状況です。県内では免許証保有者400万人のうち75歳以上は、84,700人になります。昨年度の返納者数等は15,854人となります。

高齢者ドライバーが事故を起こす割合についてお話しします。県内では昨年18,000件の交通事故がありました。そのうち65歳以上のドライバーは3,790件で、約20%を占めています。27年は22%、26年は19%ですので、若干ですが増加の傾向になっています。

市内の昨年の交通事故、これは、けがをした事故になりますが、全体では294件です。そのうち65歳以上が64件。21・77%となります。こちらも27年と比較すると増加傾向にあります。

(議長)

はい。ありがとうございました。それでは御質問等ございますか。

それでは採決を行います。平成29年度、事業計画ならびに予算につきまして、御承認いただけますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

御異議ないようですので、そのように決定させていただきます。

続きまして第3番目の議題、布施ルートの改正について、事務局の説明をお願いします。

(事務局)

(資料に沿って説明)

(議長)

布施ルートの変更について、変更するに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

はい、ありがとうございます。それでは採用決定させていただきます。

続いて、報告事項に入りたいと思います。

あびバス及びふれあいバスについて、事務局の説明をお願いします。

(事務局)

(資料に沿って説明)

(議長)

御意見御質問があればお願いします。

(委員)

あびバス新木ルートですが、以前アンケートの結果によって、新木近隣センターバス停を廃止した経緯がありますが、今後、大掛かりなアンケートとはいかないまでも、地域の声を

聞いていく等のフォローはあるのでしょうか。新木近隣センターではイベントの際に、やはり足の便が悪いということがよく聞かれます。また、坂があるのでバスがないと不便です。新木近隣センターバス停が復活してほしいというのが地域の意見です。

(事務局)

お答えします。新木近隣センターバス停の復活ですが、通常では利用者が見込めないところですので復活は難しいと思います。また、イベントのときだけというのも、路線バスでは難しいので、臨時バス等の御検討をいただけたらと思います。

住民アンケートなどの意見聴取ですが、実は、この12月にも各自治会宛にアンケートを実施したところでした。ここ数年は、少子高齢化の影響で、めまぐるしく状況が動くと思いますので、その度にアンケートというのは、実施していきたいと思います。

(委員)

ふれあいバスの利用状況を見ますと市内バス停が年々増加して、28年度は月平均して1,200人と定着してきていると思います。生活にも便利に利用できてありがたいと思います。

この高齢者の免許証自主返納制度ができたとしても、ふれあいバスの利用者は、むしろだんだん増えてくるのではないかと思います。

ところで、印西市と我孫子市の費用の負担というのは、どうなっているのでしょうか。

(事務局)

印西市と共同で運行している、ふれあいバスの運行費用は、我孫子市が22%、印西市が78%ということで、経路の走っている距離で計算しています。ただ、本格運行に伴い購入しました車両については、我孫子市が3分の1、印西市が3分の2の負担になっています。

(委員)

住民の方も便利さを感じているようなので、今後ともよろしく願いいたします。

(議長)

ほかにいかがでしょうか。それではないようですので、次に行きたいと思います。

我孫子市公共交通に関するアンケート調査結果分析について、報告をお願いしたいと思います。

(事務局)

(資料に沿って説明：日本大学理工学部)

(委員)

アンケートの中で、特に新木地区、布佐地区のアンケートの満足度というのがありましたが、不満が多いのは(国道)356号線から北側なのか、南側なのか。今、南側は一切バスが通ってないですけれども。どちらがどうなのか、わかれば教えてください。

(事務局：日大)

今回のまとめ方では地域ごとにまとめていますが、目的別に国道356号線の北か南かといった分け方も可能ですので、後日データをお渡しできればと思います。

(委員)

これまで連携計画を5年間やってきて、5年前とは市全体の平均年齢も変わってきている中で、ここまでの5年間、これからの5年間と市全体の高齢化の問題を考えますと、この協議会だけで対応を考えていくのは、若干限界があるような気がします。そうしますと、市全体として取り組んでいくべき課題の一つということで、つまり、住民の移動手段を単にあびバスやタクシーでどうこうということではなくて、もっと大きなくくりで捉えていく必要もあるかと思っています。

これからの「協議会としてのあり方」を今後の5年間を見据えるときに、少し考えていく必要があるという気がします。

(事務局)

ただいま、ご指摘にもありましたが、ここ5年間というのは、バスやタクシーにとっても厳しいものとなっています。今、こちらの社会問題になっているのが運転手の高齢化で、運転手が集まらないという問題があります。また、高齢化が進み通勤世代、通学世代が少なくなれば、現在の路線が維持できないという問題が生じてまいります。そうしたところも踏まえて、今後、新たな公共交通なのか、それとも路線の維持なのかというところも、本協議会で議論していく必要があるのではないかと考えております。

もちろん日大からいただいた分析の内容を基にして、改善していくという方法もあると思います。

(委員)

広義の意味では、自家用車を使った通勤も交通手段の一つであると考えます。

我孫子市は東地区の問題を抱えているわけですが、天王台駅周辺に平面駐車場が多く分布しています。そこを利用している方が、どういう方で、どういう目的で使っているかという実態も抑えていかないと、東地区の路線の問題や成田線の問題などに関係してくることなので、そういうところも踏み込んでいった方がよいのではないかと思います。

それから、湖北地区における湖北台地域と湖北駅北側地域とは、全く異次元の世界なの

で、交通連携計画やアンケートなどを分析していく上では、湖北地区というふうに、ひとくくりにはできないと思います。

湖北台地区（湖北台団地）の方は、だいたい10分も待てば、路線バスが次々ときて、天王台駅まで運んでくれますので、特に天王台駅へのバスを利用している方は、だいたい満足されていることはわかります。

そこで、一つ教えてもらいたいことは、湖北駅の北側地区と新木駅、布佐駅というのは、同じ環境だと思えますけれども、湖北地区のみどり台のあたりが、路線バスの満足度の高い地区となっています。また、吾妻台（新木）あたりが、路線バスが少ないということで、不満度が高くなっています。いずれも路線バスがないところですが、どうなっているのか教えていただければと思います。

（事務局：日大）

ただいま、手元に数字がないので細かいところまではわかりませんが、もともとあまり路線バスを使わない地域（みどり台地区）が組み込まれている。あるいは、あびバスがそこに入っている地域（吾妻台地区）があると思われます。地域として路線バス、あるいはあびバスといったものが、混同している可能性があります。地区として路線バスの必要性を考えるときに十分か否かといった結果が、少し出たという気がします。例えば吾妻台のところに関しましては、交通の問題が定常化しているということで、どういう形であっても不満という意識が上がってきてしまうという気がします。

いずれにしても、あびバスやタクシーなど、公共交通の振り分けたもののその満足度状況をクロスで集計をするなど、そういう形で細かい分析をしないと、実際の問題の特化には至らないということかもしれません。

そういったところは、今後も継続で精査する必要があると考えています。

（事務局）

それでは新木駅デジタルサイネージの運用に移らせていただきます。

（資料に沿って説明：日本大学理工学部）

（議長）

何か御質問御意見ございますか。よろしいですか。

その他、事務局何かありますか。

（事務局）

本日、こちらの下敷き（あびバス10周年、通算乗客数200万人突破記念下敷き）を配付させていただきました。あびバスが10周年を迎えたということで、阪東バスさんに作成いただいたものです。表面があびバスの新車両の写真。裏面がすごろくという形になってお

ります。こちらは、大変好評をいただきまして、我々の手元にあるうち、既に9割方が子ども達に配られているところです。これを機に阪東バス、あびバスといった公共交通に親しみを持っていただければと考えております。

(ほか、事務局人事異動の件)

(議長)

事務局の方からは終わりましたが、皆さんの方からなにかございますか。よろしいでしょうか。

では、以上をもちまして当協議会会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。